

大津市制120周年記念企画展（第76回企画展）

60年前の大津

平成30年10月2日（火）～11月25日（日）



市役所前を巡行する大津祭の曳山 昭和 33 年（1958） 大津市歴史博物館蔵

大津市制 60 周年の年に行なわれた大津祭の曳山巡行の様子です。左手に見える塔のある建物が当時の大津市役所です。今の旧大津公会堂の南側にあり、遠くからも見える大津のランドマークでした。玄関には、市制 60 周年記念の横断幕が掲げられているのが見えます。

# 60年前の大津

会期 平成30年10月2日（火）～ 11月25日（日）  
【休館日 月曜日（10月8日を除く）、10月9日】

平成30年10月1日、大津市は明治31年（1898）の市制施行から120周年、人にたとえれば「大還暦 2度目の還暦」という節目を迎えます。今回の展覧会では、大津市が還暦を迎えた昭和33年（1958）を中心に、高度経済長期を迎えて急速に変化する昭和30年代の市内の移り変わりを、当時の写真や資料で紹介します。

昭和33年は、大津市にとって新たな出発となる年でした。戦後、米軍（進駐軍）によって使用されていたキャンプ大津が返還され、返還間もないキャンプA地区（現 皇子山総合運動公園）の体育館で、市制60周年記念式典が行なわれました。

この頃の大津市は、湖岸の埋め立てや山の手の開発などによる市街地の拡大とともに、学校や公共施設などの都市基盤の整備が急速に進められました。これらの様子は、当時の広報誌や市制60周年の記念誌『還暦』などに多くの写真を使って紹介されています。まさに、現在の私たちが生活する大津の風景や生活の土台は、この頃にかたち作られていったといえるでしょう。

また、本展覧会期間中のミニ企画展は「大津市制の120年」と題して、明治31年の市制施行から現在までを市町村合併を中心に、かけあしで振り返ります。また、期間限定ですが、西武大津店でも貴重なカラー写真の展示も予定しています。この機会に、これまでの大津市のあゆみについて理解を深めていただければ幸いです。



開通当時の湖岸道路 昭和33年頃

今の大津警察署あたりから浜大津方向を撮影した写真。道路はまだ舗装されていません。打出浜の埋め立ては、間もなくして行われました。

## 企画展「60年前の大津」 インフォメ ション

会 場 歴史博物館企画展示室B（常設展示室内にてミニ企画展「大津市制の120年」を同時開催）

観覧料 常設展示観覧料と同一 一般320円（250円） 高大生240円（190円）・小中生160円（120円）

内は15名以上の団体等の割引料金。大津市内在住の65歳以上の方は一般料金の半額。

大津市内在住の障がい者の方、市内在住の介護保険の要介護者・要支援者の方は無料。

主 催 大津市、大津市教育委員会、大津市歴史博物館

## キャンプ大津返還と市制 60 周年

昭和 33 年（ 1958 ） 0 月 1 日、大津市制 60 周年の記念式典の会場は、米軍のキャンプ A 地区にあった体育館（皇子山体育館）で催され、終了後には全長約 2 キロにおよぶ祝賀行列が、市内をパレードしました。

この年の大津市は、現在使用している市章の制定、大津市民の歌の制作、名誉市民の創設、『新大津市史』の編纂など、市制 60 周年を記念した、様々な事業が行われました。ちなみに大津市民憲章の制定は、昭和 36 年のことです。



奥に見える建物が式典会場となった体育館



滋賀会館で行われた「大津市民の歌」の発表会



記念パレードの風俗行列

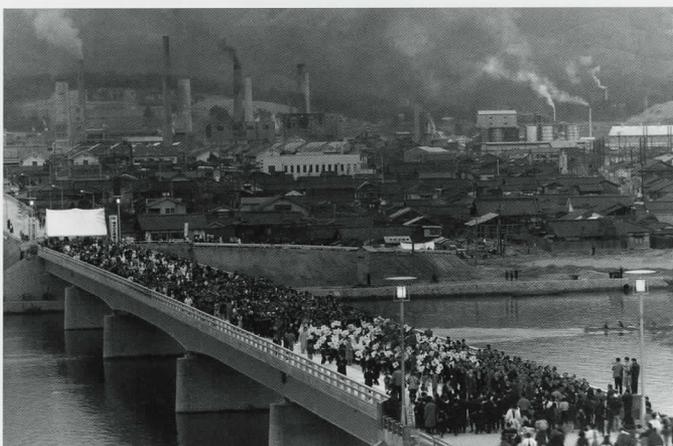


比叡山ドライブウェイの開通 昭和 33 年

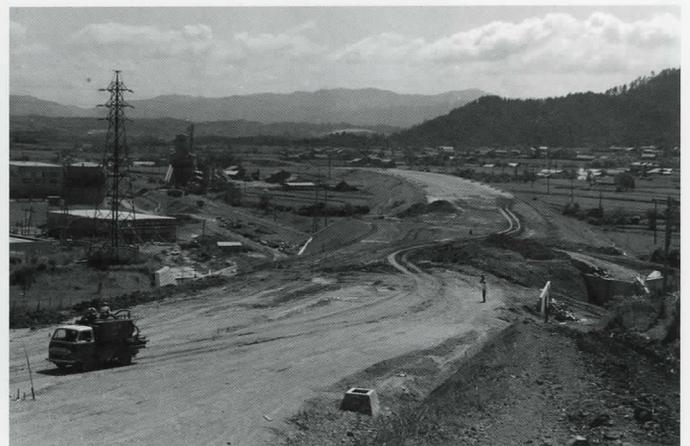
## 昭和 30 年代の大津の変化

昭和 33 年の湖岸道路や比叡山ドライブウェイの開通をはじめ、翌年の国道 1 号瀬田 1 大橋の開通（それまでは瀬田唐橋を渡っていました）など 大津市内の交通網が劇的に変化した昭和 30 年代。名神高速道路や東海道新幹線の開通も昭和 30 年代終わりの出来事です。

展示では、風景の写真だけでなく 人々の暮らしの様子も数多く紹介します。現在の写真も並べて展示しますので 当時を知らない方々も 比較しながらご覧ください。



国道 1 号瀬田 1 大橋の渡り初め 昭和 34 年



名神高速と新幹線の交差点工事（北大路） 昭和 30 年代

# 百間堤—大津の古文書 11—

会期 平成30年8月28日(火)～9月30日(日)  
 【休館日 期間中の月曜日(9月17日・24日を除く)、9月18日・25日】

大津市大物の四ツ子 に沿う堤防、通称「百間堤」は、嘉永5年(1852) 度重なる水災害から集落域を守るため最終的な完成をみたといわれています。地元に残された古文書をみていくと、何度も起こる水災害に対応して、江戸時代の前期から繰り返し普請(工事)されてきたことがわかります。

本ミニ企画展では、江戸時代の百間堤の普請に関する古文書だけでなく、関係する絵図も展示し、水災害の様子、堤普請の実態、そしてそれらと向き合った大物村の姿を通じて、地域社会と自然災害の歴史を紐解きます。



写真1 百間堤(現況) 大津市大物(撮影 個人)

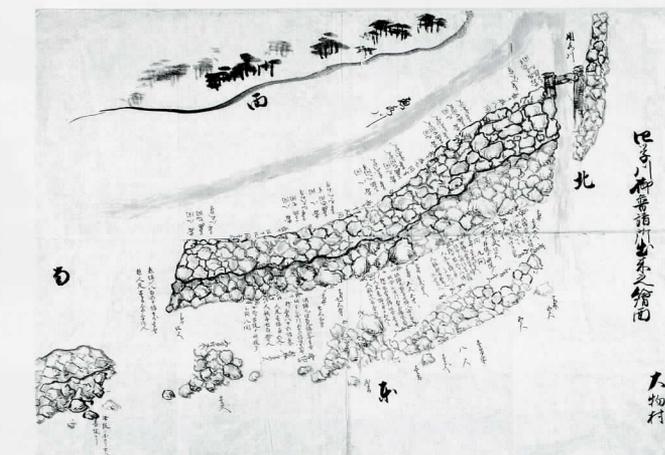


写真3 四ツ子川御普請御出来絵図 江戸時代後期  
 制作年代は書かれていませんが、嘉永5年(1852)段階の完成図だと考えられます。それぞれの箇所寸法等が細かく記されています。

写真2 大物村絵図 元文元年(1736)  
 四ツ子川に沿って築造されている三つの堤(総称「百間堤」)が石堤と砂堤で構成されていたことがわかります。  
 (写真2・3の絵図は、大物共有財産管理組合蔵)

## 巨大寺院の未知なる文化財を調査する

当館では市内のお寺や神社を調査し、どのような文化財が伝来しているのかを把握し、展覧会などを通して市民の皆さんに公開するように努めています。なかでも、お隣の園城寺（二井寺）については、長い時間をかけて機会を見つけては少しずつ調べており、今でも様々な成果が出ています。特に本年度は、この秋に予定している企画展「神仏のかたち—湖都大津の仏像と神像—」展や、来春の「フェノロサの愛した寺 法明院—二井寺北院の名刹—」展の事前準備もかねて、精力的に行っています。その様子を少し紹介してみましょう。

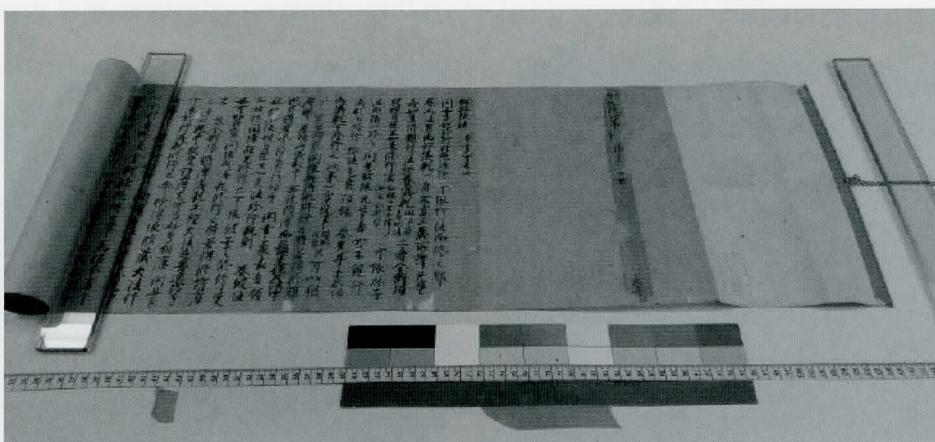
まず、先日行ったのが、国宝の客殿が著名な光浄院。こちらの蔵やお部屋、押し入れなどにあるいろいろなものを拝見。その多くは普段使う道具類などですが、大量の江戸～明治時代にかけての書類をはじめとして、聖教類、そして軸類が出てきました。なかでも、今まで全く知られていなかった中世に遡る仏画が何本も見つかったことは我々を歓喜させました。それらはとても面白い図像で描かれており、今後、仏像 仏画の研究の上でもとても興味深いものとなるはずです。

次に、フェノロサやビゲローのお墓があることでも知られる法明院にも、今まで知られていなかった謎の聖教が伝来していました。どうやら原本は平安時代に園城寺で書写され、平安時代後期には仁和寺の守覚法親王が写し、さらに鎌倉時代に再び園城寺で書写されたもののようです。内容はさまざまな仏について記してあり、天台宗の『阿娑縛抄』に近いものかもしれません。ところが同じキリストを持つ例が他に今のところ見当たらず まったく新出の天台聖教 しかも寺門系の の可能性も出てきました。それが何なのかがわからないということは、名前すら付けられないという状況であり、いい意味で我々をおおいに悩ます文化財が出てきたのです。

さらに、この春に園城寺の金堂内陣で行われた「おお若葉の競演」展で展示するために、文殊堂に安置されている木造文殊菩薩坐像を簡単に調査しました。本像は、表面の作風や彫り口などから今まで江戸時代の像と思われていましたが、像底から内部を見てみると、構造が中世（南北朝時代か）に遡るものを持っていることがわかりました。きっと傷んだ古像を近世に修理したということなのですね。

このように、このたった一ヶ月程でもたくさんの発見 再認識がありました。みなさんはひょっとしたら「文化財調査なんて、多くの人々がもう既にやっているのだから、全部わかっているのとちゃうの?」と思われるかもしれませんが、いやいや巨大寺院を侮るなかれ、そう簡単には全貌は明らかにはなりません。まるでブラックホールのように奥行きが見えず「まだこんなのがあったのか」という発見は、特段珍しいことではないのです。われわれ学芸員の未知なる文化財への探索は、まだまだずっと続くのです。

(学芸員 寺島典人)



「法明院の謎の聖教を調査」

# カラー写真でみる 60 年前の大津 (会場 西武大津店 会期 11月2日(金)～11月8日(木))

西武大津店の会場でご紹介する写真は 昭和 30 年代の大津市内各所が撮影された鮮明なカラー写真です。当時、カラーフィルムは高価だったため、大変貴重な記録写真です。大津市内の町並みや観光地の様子 ビワコ 周自転車競走といった行事の写真など 厳選した数々を展示。総天然色でよみがえった 60 年前の大津をお楽しみください。  
※このページの内容は、会場と会期が他と異なりますので ご注意ください。



京阪中ノ庄駅 昭和 30 年代



玻璃丸 昭和 31 年



大津港と建設中の湖岸道路 昭和 31 年



サンケイバレイのカーレーター 昭和 41 年

## インフォメーション「カラー写真でみる 60 年前の大津」

会期 11月2日(金) 11月8日(木) 午前 10:00 ～午後 8:00 (最終日は午後 6 時まで)  
会場 西武大津店 6 階 特設会場 (大津市におの浜 2-3-1) 協力 西武大津店

## ご利用案内



- 交通機関  
京阪電鉄石山坂本線「大津市役所前(別所)」駅  
下車 徒歩約5分  
JR 湖西線「大津京」駅下車 徒歩約15分
- 駐車場 約 70 台 (無料)

### ■常設展示観覧料

区分	個人	団体(15名以上)
一般	320円	250円
高校生 大学生	240円	190円
小学生 中学生	160円	120円

- ◆大津市内在住の 65 歳以上の方は一般料金の半額。
- ◆市内在住の障がい者の方、市内在住の介護保険の要介護者の方 要支援者の方は無料 (証明するものをご提示ください)。
- ◆ミニ企画展は、常設展観覧料でご覧いただけます。
- ◆企画展の観覧料については、その都度定めます。

### ■開館時間

午前 9 時～午後 5 時 (展示室への入場は午後 4 時 30 分まで)

### ■休館日

月曜日 (祝日 振替休日の場合は開館し、翌日が休館)  
祝日の翌日 (土 日曜日の場合は開館)  
年末年始 (12月27日～1月5日) 館内点検 (6月中旬)  
その他、業務の都合により休館する場合があります

### — 歴博カードのご案内 —

当館主催の展覧会を自由にご観覧いただける定期観覧券です。また、当館発行の出版物や催し物の割引、様々な情報のご案内など、多くの特典を設けております (1年間有効)

料金	一般	高大学	小中学
	2,000円	1,500円	1,000円

★詳しくは博物館までお問い合わせ下さい。



## 大津市歴史博物館

〒520-0037 滋賀県大津市御陵町 2 番 2 号  
TEL 077-521-2100 FAX 077-521-2666  
<http://www.rekihaku.otsu.shiga.jp/>